

✠030 abba (父よ)

祈りにおいて、神への呼び掛けとしてイエスが用いた言葉で、本来は、幼児が父親に対して言う「パパ」のような幼児語である。当時のユダヤ教では神に対しては用いない言葉である。従って、ユダヤ教の側のしてみれば、「不敬虔」とも言える言葉をイエスは神に対して、祈りに繰り返し用いた。イエスは私たちに、聖く偉大な神を身近な「お父さん」と紹介してくださったのです。パウロも、ギリシア語で「われらの父よ」と書かずに、「アバ父よ（'abba ho pater）とアラム語にギリシア語を加えて使用している。また主ご自身が教えてくださった主の祈り（『マタイによる福音書』6:9~13）の最初の言葉である「アバ、父よ」で、信頼をもって親しく呼びかけることを許してくださっています。「放蕩息子」では、弟も兄も各々において父親（神）に甘えています。弟は赦しを求めることにおいて、兄は、弟を赦す父親の寛容さに嫉妬する面において、甘えているようにも見えます。

Our Father in heaven, / hallowed be your name, / your kingdom come,
your will be done / on earth as it is in heaven.
Give us today our daily bread.
Forgive us our debts, / as we also have forgiven our debtors.
And lead us not into temptation, / but deliver us from evil;
for yours is the Kingdom and the power and the glory forever.
Amen.

天にまします我らの父よ。ねがわくは御名をあがめさせたまえ。御国を来たらせたまえ。

みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。

我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。

我らに罪をおかす者を、我らがゆるすごとく、我らの罪をもゆるしたまえ。

我らをこころみにあわせず、悪より救いだしたまえ。

国とちからと栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。 ←「頌栄」と呼ばれる結びの部分は、
アーメン。（プロテスタント訳 1880 年） 本来は、「主の祈り」にはない。

英語訳では、KJV（King James Version、欽定訳聖書：イングランド王ジェームズ1世がイングランド国教会の典礼で用いるための聖書の標準訳を求め、その命令で翻訳された。欽定訳は19世紀末に至るまでイングランド国教会で用いられた唯一の公式英訳聖書である。また、日本における文語訳聖書のように、荘厳で格調高い文体から、口語訳の普及した現在も多くの愛読者を保ち続けている。）とNASB（New American Standard Version）が「For Thine is the kingdom, and the power, and the glory, forever. Amen」と記しています。この頌栄の原型となっているのは、ダビデが祈った祈り（I歴代29:11）だと言われています。

⇒「偉大さ、力、光輝、威光、栄光は、主よ、あなたのもの。まことに天と地にあるすべてのものはあなたのもの。主よ、国もあなたのもの。あなたはすべてのものの上に頭として高く立っておられる。（I歴代29:11）